




## ◆生ごみ処理機の種類と特徴

生ごみ処理機は、燃えるごみを減らすことができ、できた堆肥を使って野菜や花を育てる楽しみにもつながります。

ただし、その種類や方法は様々ですので、それぞれの家庭に合ったものを選ぶことが大切です。下表に一般的なものをご紹介しますので、参考にしてください。

	設置場所	使用方法・必要なもの	特徴
<b>電気式 生ごみ処理機</b>  	屋内用と屋外用があります	①水切りした生ごみを投入 ②機械が生ごみを乾燥、かくはん ③できた処理物は肥料として使えます ＊乾燥型とバイオ型があり、機種によってチップ等が必要。 ＊同等の機能を持つ、手動式(外側についたハンドルでかくはんさせるタイプ)もある。	・手間をかけずに衛生的に処理できる ・チップ材や電気代がかかる
<b>コンポスト</b>  	屋外の日当たりが良く、水はけの良い場所の地面を10cm程度掘り起こし設置(コンクリートの上でも使用可能)	①水切りした生ごみを投入 ②生ごみが容器の3分の1程度の厚さになったら、その上に土をかぶせます ③時々、落ち葉や雑草などを入れます ④容器が一杯になるまでこれをくり返す ⑤容器が一杯になったら3~6ヶ月放置 ⑥黒くなり臭いがしなくなれば堆肥の完成です	・庭や畑があり、落ち葉や小枝などが出る家庭や家族が多く生ごみの出る量が多い家庭におすすめ ・かくはんが必要
<b>EMボカシ容器</b>  	台所、ベランダ、軒下など直射日光のあたらない場所	①水切りした生ごみを投入 ②ボカシ(発酵資材)をふりかける ③蓋を閉め空気が入らないようにする ④生ごみが出るたびこれをくり返す ⑤水分(液肥)をこまめに抜く ⑥容器が一杯になったら、そのまま2週間程度寝かし、発酵完了 ⑦2~3倍の土をかけて、花壇やプランターなどに返します ⑧2~3ヶ月でほぼ分解し堆肥として利用可能	・かくはんの手間が要らない ・発酵の後、熟成させる庭や畑が必要